



株式会社サニーサイドアップグループ
2024年6月期第3四半期 決算補足説明資料

Agenda

アジェンダ

1. 2024年6月期 第3四半期連結決算レビュー
2. 事業状況
3. 中期成長戦略の進捗
4. Appendix

連結決算ハイライト

- 3Q累計営業利益は過去最高を更新
- 営業利益率は二桁台を維持、2Qに顕在化したブランドコミュニケーション事業の統合効果が持続・拡大
- 通期業績予想を据置き、4Q特有の販管費計上を見込むも、利益計画達成確度は高まる

【3Q累計】営業利益増加率

前期比+**34.3%**

- 3Q累計で過去最高益、単独も大幅増益
(単独1Q▲23.0%、2Q+46.6%、3Q+89.0%)

【3Q累計】営業利益率

前期8.0%→**11.0%**

- コア事業の寄与、2Q以降に大幅改善
(単独1Q+0.8pt、2Q+4.2pt、3Q+2.9pt)

ブランドコミュニケーション事業 営業利益率

前期15.4%→**20.0%**

- PRでは提供サービスの高付加価値化、
販促施策・商品企画では効率化が進展

営業利益 通期業績予想進捗率

96.5%

- 通期業績予想を据置き
- 過去2期平均（対通期実績）97.4%

親会社株主に帰属する 四半期純利益

前期比+**42.4%**

- 1株当たり四半期純利益
前期3Q累計 45.13円→64.29円

1株当たり年間配当金

前期比 **5**円増配（予想）

- 中間配当を実施
- 期末配当金は1株当たり15円予想

1.

2024年6月期 第3四半期 連結決算レビュー

第3四半期累計 連結業績サマリー

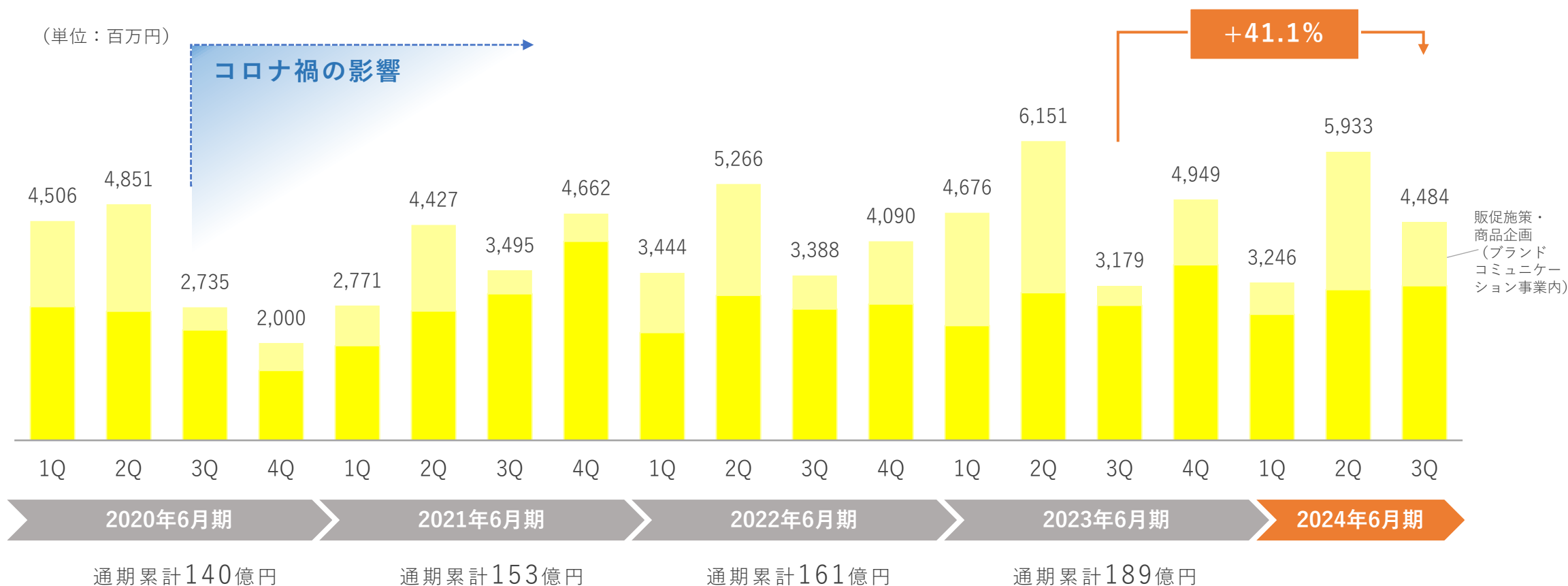
- 営業利益以下で二桁増益を達成、各段階利益は3Q累計の過去最高益を更新、営業利益率も改善
- 売上高は1Q大幅減収の影響逡減、3Q単独で大幅増収、ブランドコミュニケーション事業が寄与
- 通期業績予想に対する売上高の進捗は厳しいものの、各段階利益は順調、四半期純利益は超過

(単位：百万円)

	2022年6月期 第3四半期 累計	2023年6月期 第3四半期 累計	2024年6月期 第3四半期 累計	対前年同期 増減率	2024年6月期 通期業績予想 (2023年8月14日 公表)	進捗率
売上高	12,099	14,007	13,663	▲2.5%	21,000	65.1%
営業利益 (営業利益率)	832 (6.9%)	1,120 (8.0%)	1,505 (11.0%)	+34.3% (+3.0pt)	1,560 (7.4%)	96.5%
経常利益	1,339	1,158	1,535	+32.5%	1,540	99.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	792	673	959	+42.4%	930	103.1%
1株当たり四半期純利益	52.59円	45.13円	64.29円	—	62.35円	—

四半期別売上高推移

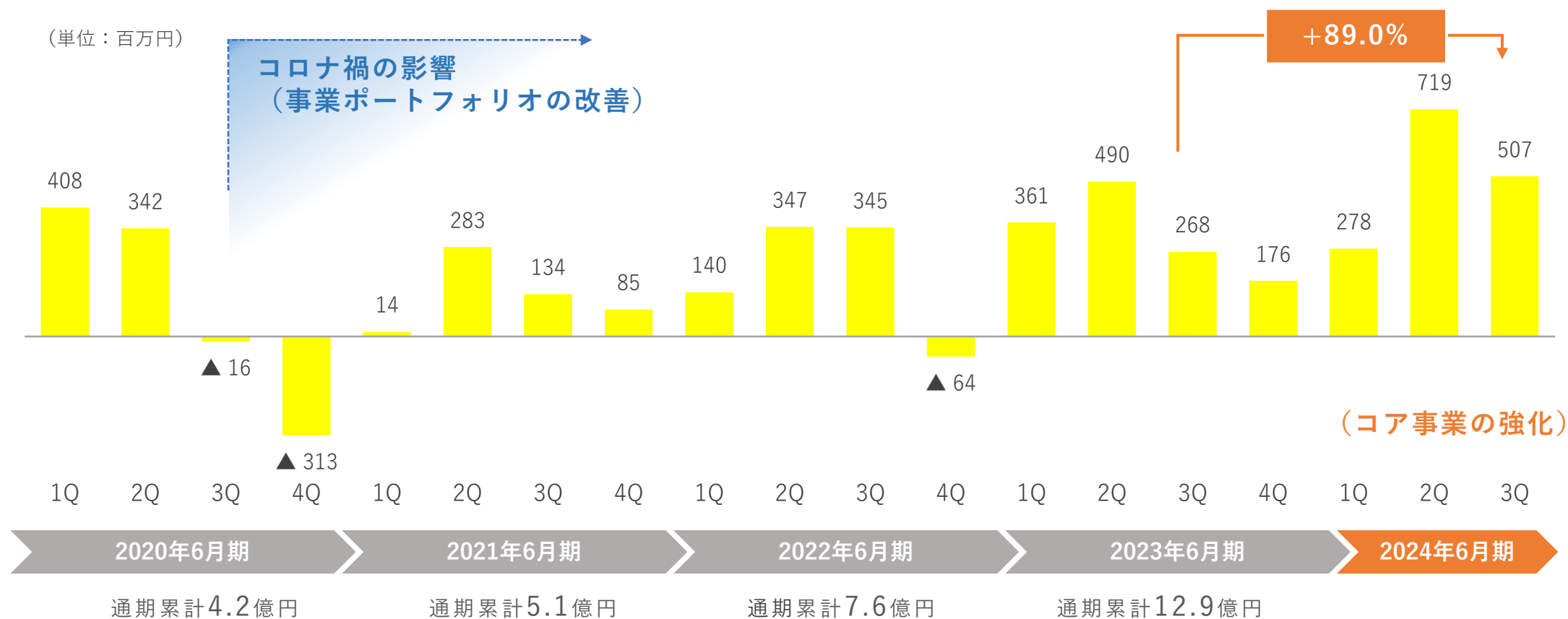
- 3Q単独で41.1%増収、減収が続いた上半期より転換
- ブランドコミュニケーション事業が寄与、1Q減収の販促施策・商品企画が大幅伸長、PRは増収継続



(注) 収益認識会計基準等を2022年6月期の期首より適用しております。

四半期別営業利益推移

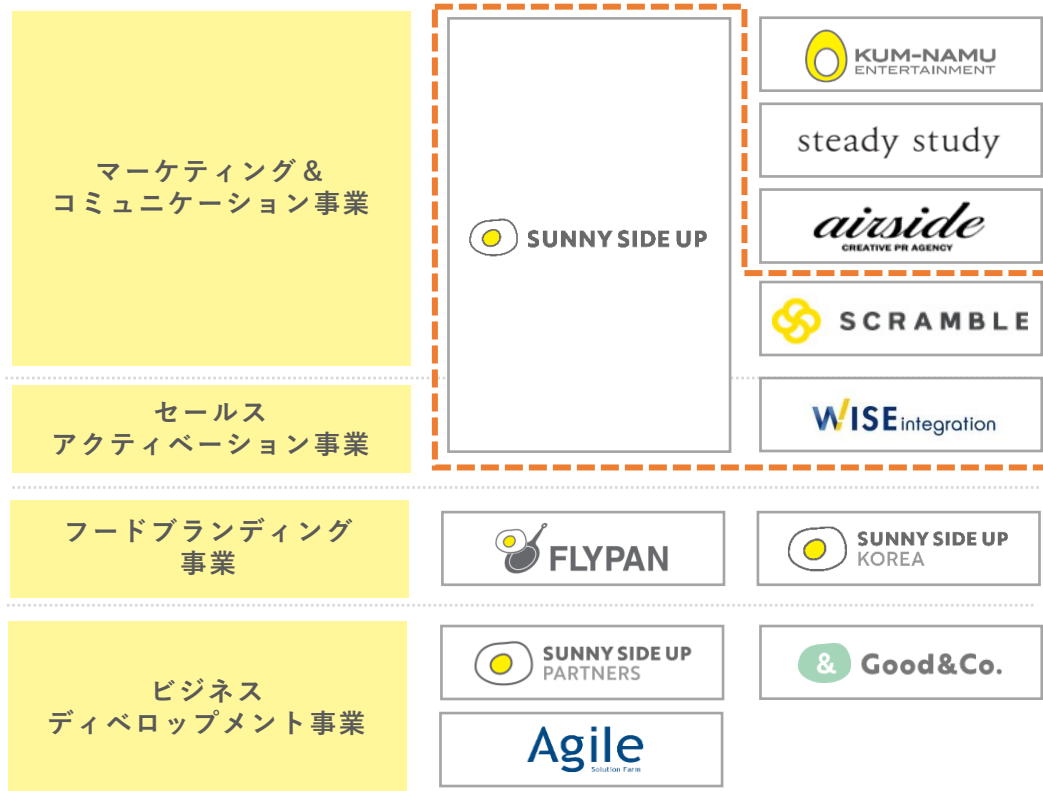
- 3Q単独で89.0%増益、ブランドコミュニケーション事業の改善が寄与
- コロナ禍を機にフードブランディング事業の改善推進、海外事業を整理、2023年6月期に改善効果創出
当期からの3か年は中長期経営方針に沿って、ブランドコミュニケーション事業の強化に注力



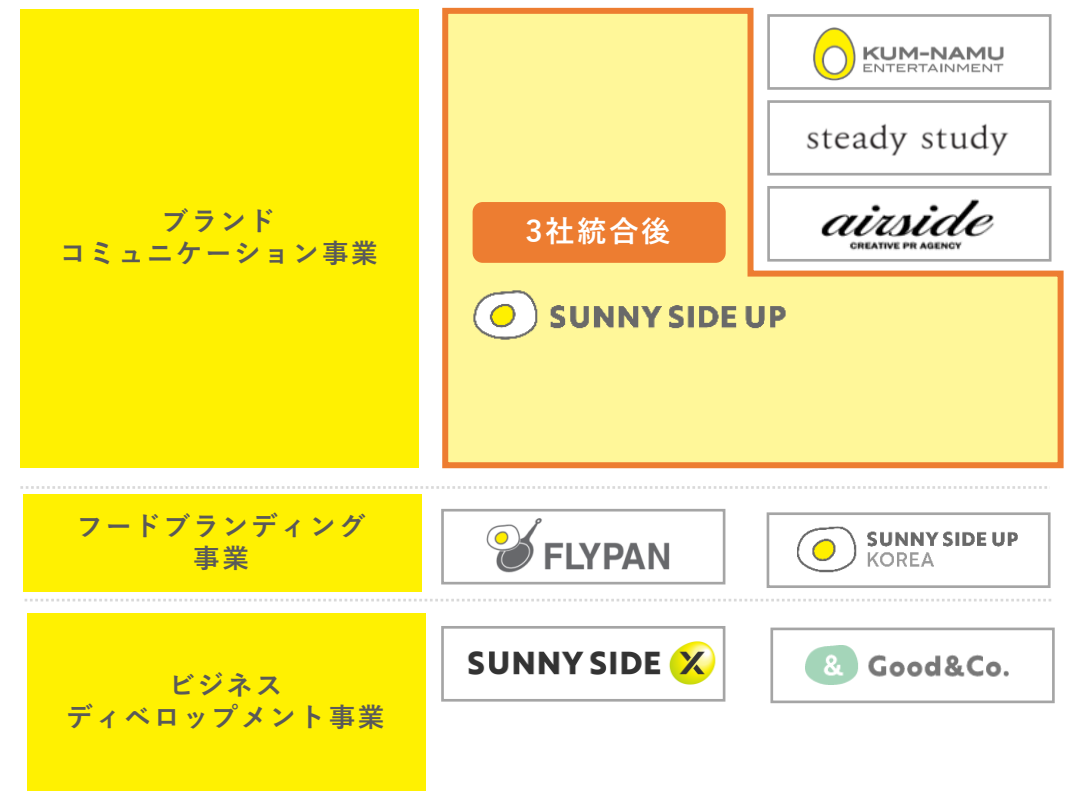
報告セグメントの変更

- 連結子会社3社間の吸収合併を契機に経営管理区分を見直し
- 従来¹⁾の2事業を統合して「ブランドコミュニケーション事業」へ変更、基幹事業として再定義

従来のセグメント（2023年6月期）



変更後のセグメント（2024年6月期）



(注) 1. 株式会社サニーサイドアップを存続会社とする連結子会社間の吸収合併を行い、株式会社ワイズインテグレーション、株式会社スクランブルを統合しております。
 2. 株式会社アジャイルは2023年7月に全株式を譲渡したため、2024年6月期より連結対象外となっております。
 3. 2023年7月に株式会社サニーサイドアップパートナーズは株式会社サニーサイドエクスへ商号変更しております。

第3四半期累計 セグメント別業績

- ブランドコミュニケーション事業：1Qの減収影響逓減、PRと販売施策・商品企画双方で利益改善
- フードブランディング事業：国内売上好調、インバウンド需要とリニューアル効果が継続
- ビジネスディベロップメント事業：減収減益、子会社株式譲渡に伴う減収、XR事業立ち上げ費用が影響
- 調整額（本社費用を含む）：費用増加、吸収合併後にオフィスの全面改装を実施

（単位：百万円）

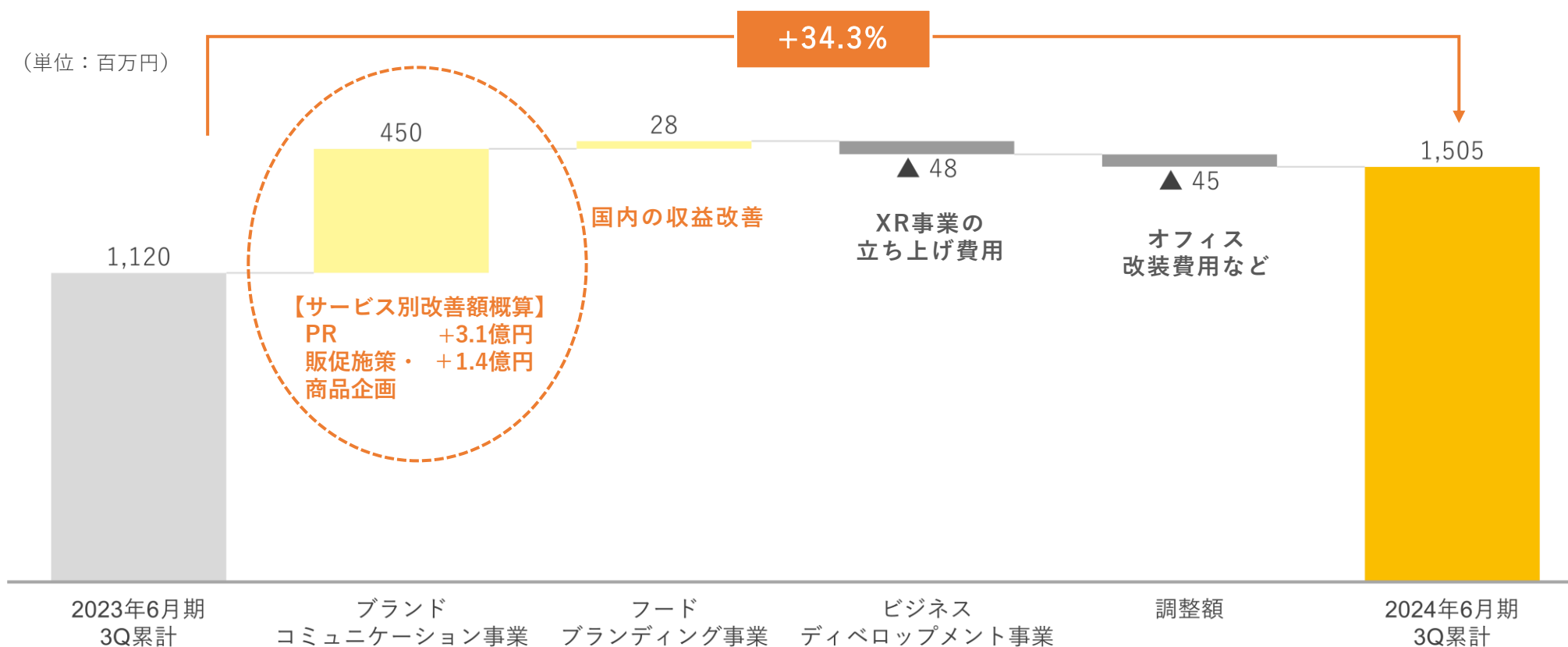
	売上高			
	2022年 6月期 第3四半期 累計	2023年 6月期 第3四半期 累計	2024年 6月期 第3四半期 累計	対前年 同期 増減率
ブランド コミュニケーション事業	9,950*	11,481	11,113	▲3.2%
フードブランディング事業	1,694	2,104	2,416	+14.8%
ビジネス ディベロップメント事業	454	421	133	▲68.2%
調整額	—	—	—	—

	セグメント利益 (営業利益率)			
	2022年 6月期 第3四半期 累計	2023年 6月期 第3四半期 累計	2024年 6月期 第3四半期 累計	対前年 同期 増減率
ブランド コミュニケーション事業	1,882* (18.9%)	1,773 (15.4%)	2,223 (20.0%)	+25.4%
フードブランディング事業	▲252	50 (2.4%)	78 (3.3%)	+55.9%
ビジネス ディベロップメント事業	▲84	46 (11.0%)	▲2	—
調整額	▲712	▲749	▲795	—

(注) 1. 2022年6月期3Q累計実績は旧区分の2事業を合計して参考値(*)として表示しております。
2. 2023年6月期3Q累計実績は変更後のセグメントに組み替えて表示しております。

第3四半期累計 営業利益変動要因

- ブランドコミュニケーション事業が増益寄与、PRと販促施策・商品企画双方の改善が進展
- 成長への戦略投資に関連したセグメント等で減益



2024年6月期 通期業績予想

- 期初公表の通期業績予想を据え置き（次頁参照）
- 売上高の計画進捗は厳しいものの、1Q下振れの影響は逡減、4Qで受注積み上げ予定
- 期末配当金は1株当たり15円予想、中間配当金を含む年間配当金は前期比5円増配

(単位：百万円)

	2023年6月期 実績	2024年6月期 業績予想	対前年同期 増減率
売上高	18,956	21,000	+10.8%
営業利益率 (営業利益率)	1,296 (6.8%)	1,560 (7.4%)	+20.3% (+0.6pt)
経常利益	1,335	1,540	+15.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	884	930	+5.1%
1株当たり当期純利益	59.28円	62.35円	—
1株当たり年間配当金 (うち中間配当金)	15円 (—)	20円 (5円)	—

2024年6月期 通期業績予想に関する補足

- 例年4Q単独は他の四半期と比べて販管費が多い傾向
業績連動型インセンティブ賞与も影響（前年3Q累計 賞与引当金169百万円、通期実績 賞与296百万円）
- 上記は業績変動要因の一つであると認識、来期以降の検討課題とする

（単位：百万円）

		期初予想	第3四半期 累計実績	第4四半期 単独実績	通期実績
2021年6月期	販売費及び一般管理費	—	1,616	834	2,450
	営業利益	300~500	433	85	519
2022年6月期	販売費及び一般管理費	—	1,827	922	2,750
	営業利益	650	832	▲64	767
2023年6月期	販売費及び一般管理費	—	1,914	940	2,855
	営業利益	1,000	1,120	176	1,296
2024年6月期	販売費及び一般管理費	—	1,799	—	—
	営業利益	1,560	1,505	—	—

2.

事業状況

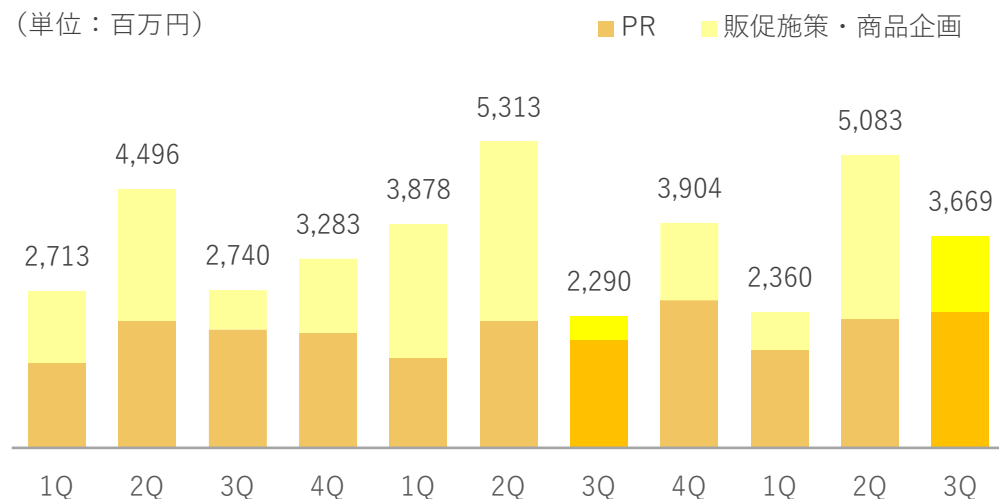
ブランドコミュニケーション事業 業績推移

- 3Qは販促施策・商品企画の売上高が大幅伸長、PRも継続的に受注増加
- PR、販促施策ともに利益改善、前年3Qに営業損失を計上した販促施策・商品企画は合併後に効率化が進展

3Q売上高

3,669百万円／累計 **11,113**百万円

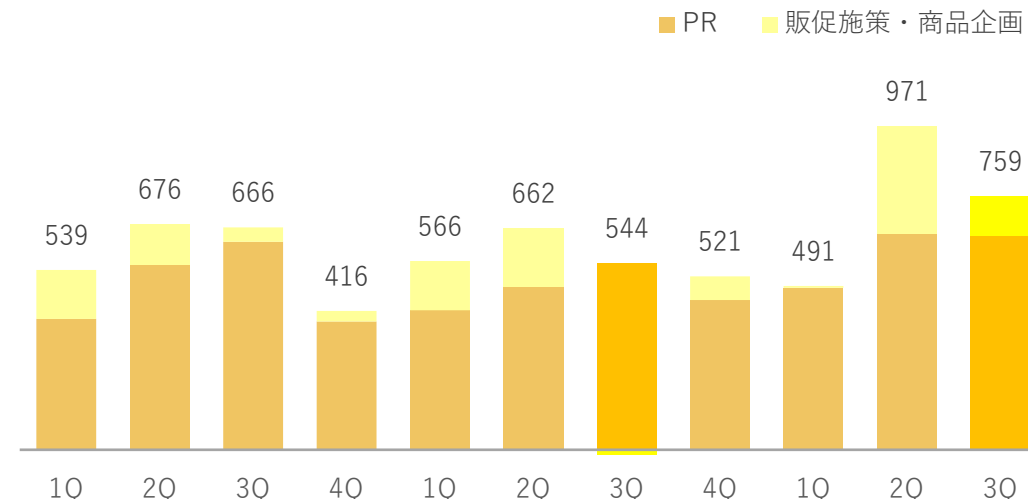
(単位：百万円)



3Q営業利益

759百万円／累計 **2,223**百万円

(単位：百万円)



2022年6月期

2023年6月期

2024年6月期

2022年6月期

2023年6月期

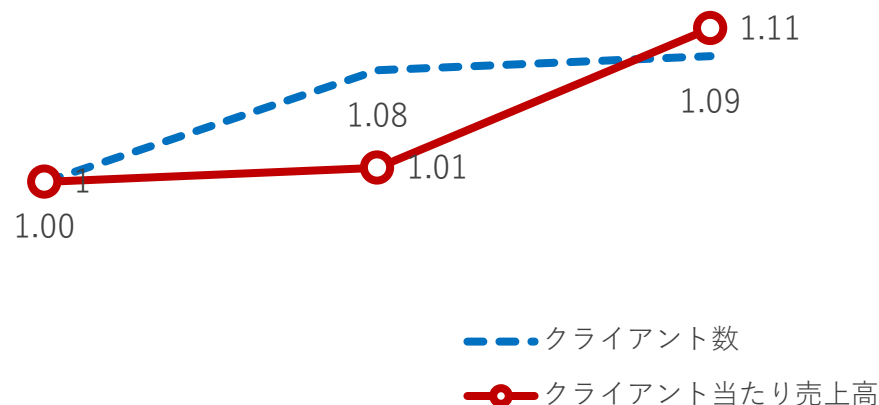
2024年6月期

- (注) 1. 旧区分のマーケティング&コミュニケーション事業とセールスアクティベーション事業を合計して参考値として表示しております。
2. 2023年6月期1Q~3Q実績は変更後のセグメントに組み替えて合計値を表示し、2024年6月期1Q~3Q実績は旧区分の参考値を表示しております。

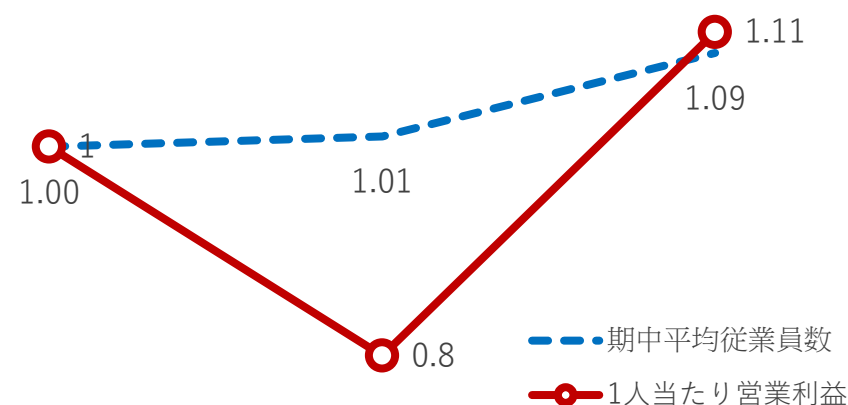
ブランドコミュニケーション事業 生産性の変化

- クライアントリレーションの強化や高付加価値化への取り組みが奏功
リテナー契約の獲得・更新を基盤にクロスセルやアップセルを提案、クライアント当たり売上高は1割増加
- 吸収合併後の株式会社サニーサイドアップの従業員数は1割弱増加
低収益案件の見直しや稼働の適正化、合併後の効率改善を通じ、前期に大幅低下した生産性は向上

【統合3社】PRクライアント数・平均売上高
(2022年6月期=1とした場合)



【統合3社】従業員数・平均営業利益
(2022年6月期=1とした場合)



2022年6月期
3Q累計

2023年6月期
3Q累計

2024年6月期
3Q累計

2022年6月期
3Q累計

2023年6月期
3Q累計

2024年6月期
3Q累計

ブランドコミュニケーション事業 業種別売上構成

- 特定業種に依存することなく、多様な業種に対応
- コスメ・ファッション、食品・飲料、商業施設・ホテルのPRに強み
- 3Qは大型キャスティングに伴うエンタメのほか、スポーツ、地方・観光の受注も拡大



ブランドコミュニケーション事業 ハイライト

- ・ 商業施設の開業PR、地方創生PR、国内外キャスティングなど、幅広い領域でサービスを提供

東急プラザ原宿「ハラカド」の開業PR（2024年4月17日開業）

- ・ 開業へ向けて、広報戦略策定からメディア内覧会、オープニングセレモニー等のイベント開催まで総合して担当
- ・ メディア内覧会には309媒体496名が出席
- ・ 商業施設にとどまらない「創造施設」としての露出イメージすり合わせを通して、22番組にて5分以上の長尺露出を実現（4月時点）



国内外のキャスティング、クリエイティブ制作

- ・ 大谷翔平 × dip
 - キャスティング、クリエイティブ制作、プロモーション等
 - TVCM・屋外広告を公開
 - CM（30秒/15秒）※¹は総視聴580万回を突破
- ・ NewJeans × ロッテ「ZERO」
 - 日本・韓国におけるキャスティング、広告代理業務等

参照先 株式会社クムナムエンターテインメント
<http://kumnamu.co.jp/>

地方自治体・企業などコミュニティ課題を解決する 専門ユニット「地方創生ユニット」を発足

- ・ コンサルティング業務のほか、PRプランニング、メディアプロモート、プレスツアー、ファクトブック制作、デジタルマーケティングなどを提供



(注) 1. 2024/3/20公開 「Let's get started!」 篇

フードブランディング事業 業績推移

- 国内売上好調、ブランド価値向上へリニューアルを実施（2023年12月七里ヶ浜店、2024年3月表参道店）
- 年2回のメニュー改編で新たなテーマを訴求、集客と客単価上昇に寄与
- 3Q単独では減益、改装費用や原価上昇に加え、改装に伴う休業期間も影響

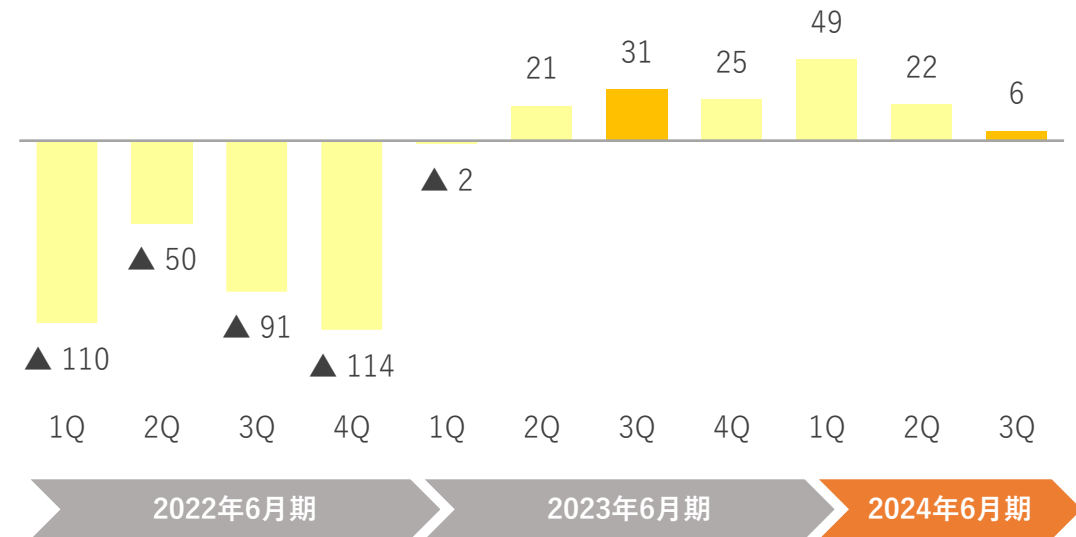
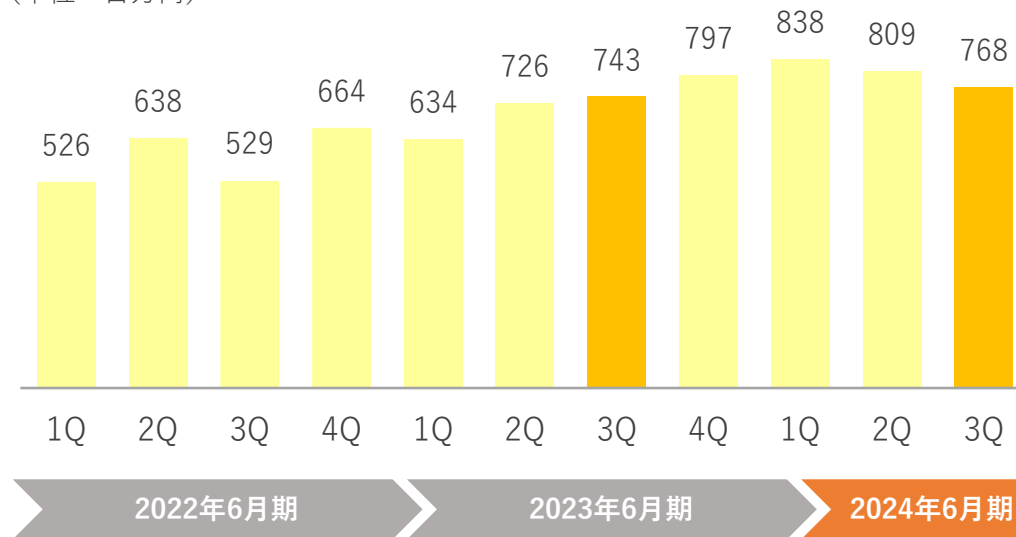
3Q売上高

768百万円 / 累計 **2,416**百万円

3Q営業利益

6百万円 / 累計 **78**百万円

(単位：百万円)

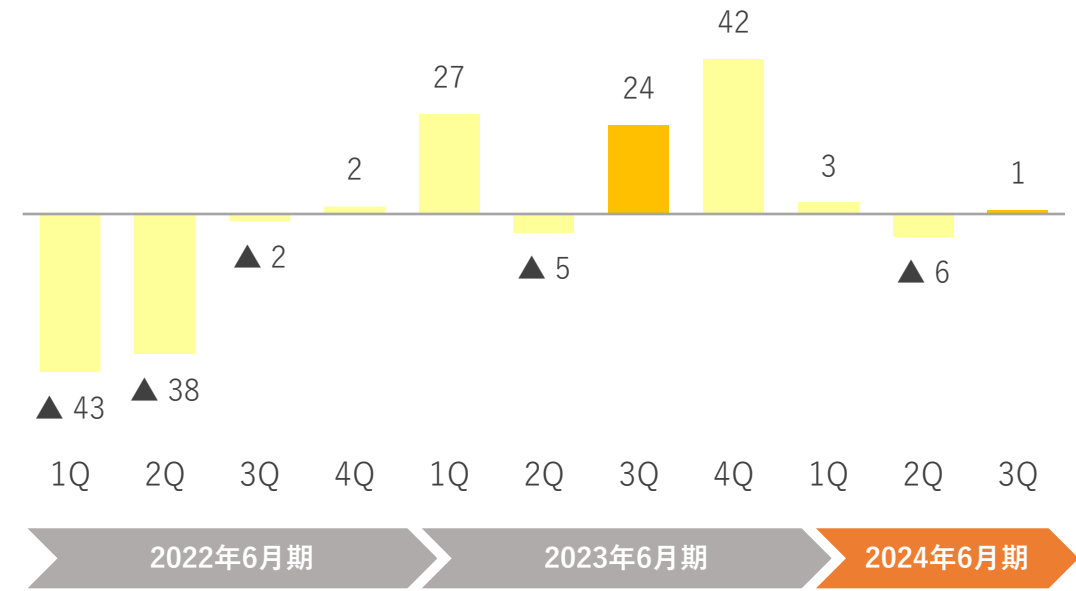
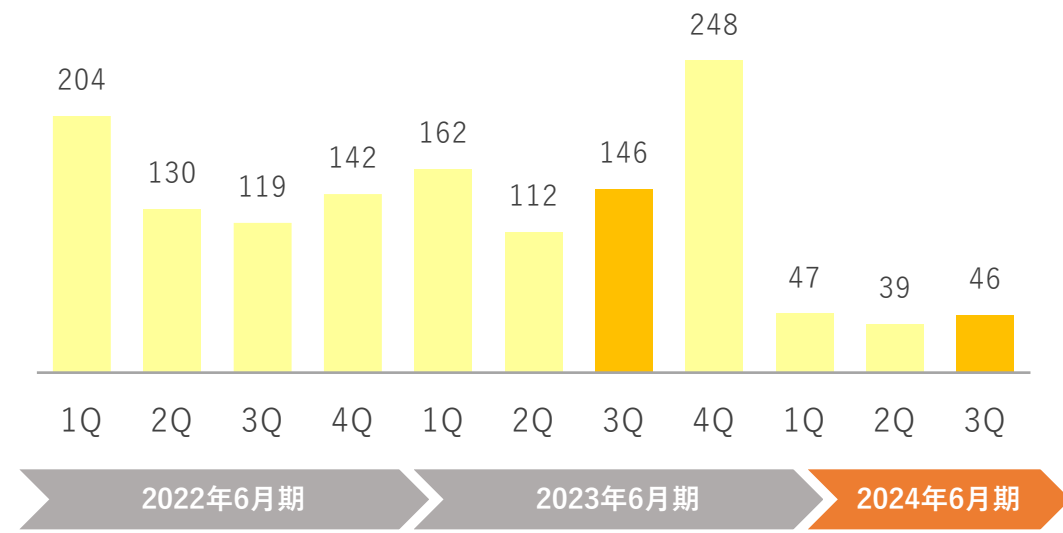


ビジネスディベロップメント事業 業績推移

- 2023年7月に子会社の全株式譲渡、減収影響は1Q約1億円、2Q0.6億円、3Q約1億円
- 2023年9月XRスタジオ開設、営業体制強化も費用吸収に時間、2024年3月に(株)STPRとスタジオ機能移管を含む戦略的な提携で合意、今後は当社顧客と同社の一般顧客向けエンターテインメント領域双方でXR技術活用を加速



(単位：百万円)

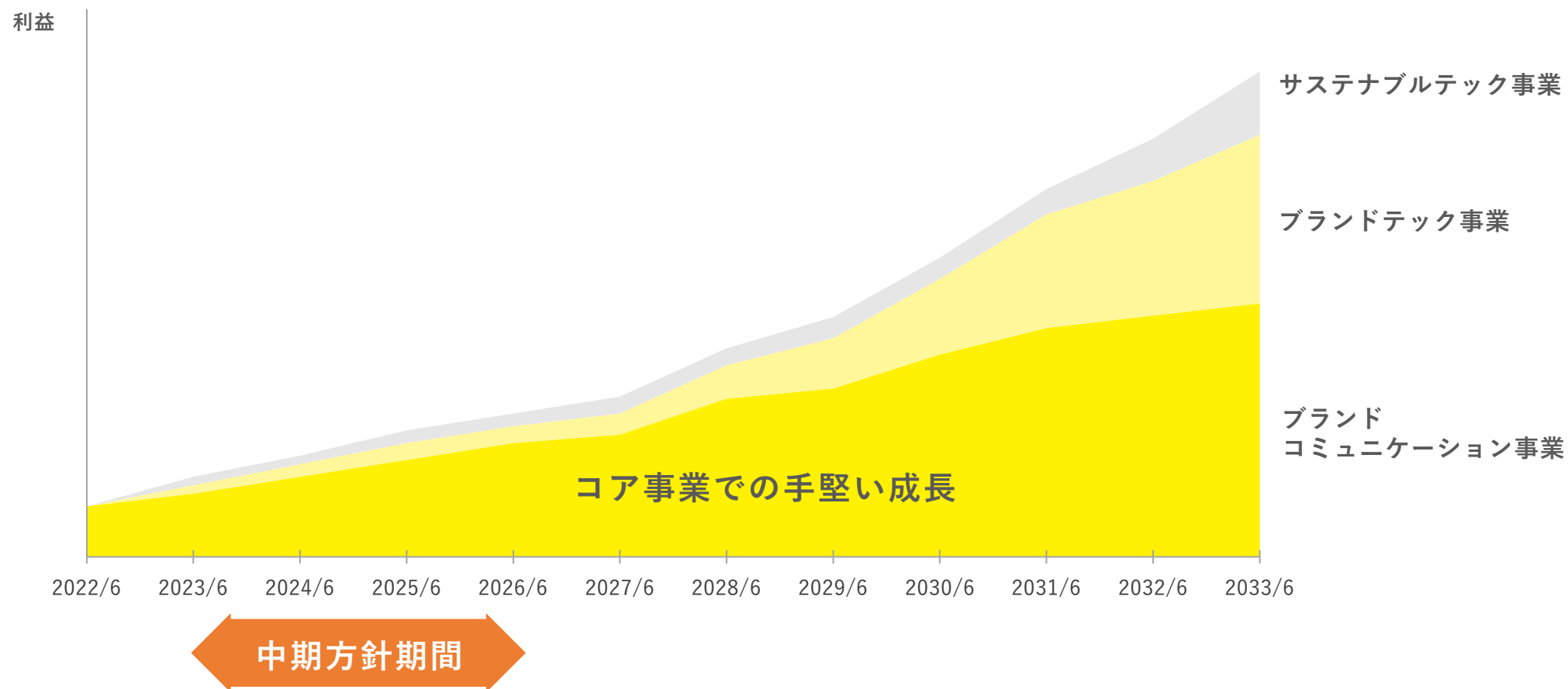


3.

中期成長戦略の進捗

中長期の事業成長イメージ

- 現中期方針期間においては、コア事業（ブランドコミュニケーション）での手堅い成長に注力
- コア事業周辺への戦略投資も行い、次期中期方針以降の新しい事業成長の柱として創造していく



中期3か年成長ターゲット

- ブランドコミュニケーション事業で、売上成長と収益性向上の双方を狙う
- フードブランディング事業は、安定的に業績を維持・改善する方針
- 2026年6月期の連結営業利益目標を20億円に設定

ブランドコミュニケーション事業

売上成長率

営業利益率

連結営業利益

年平均 **13%****16%**程度**20**億円**12.9**億円
(2023年6月期実績)

コア事業の極限までの成長

- 2024年6月期からの3か年は極限までコア事業を強化
- 短期・単発案件の対応で終わらず、顧客基盤を活用して、クライアントとの長期的な関係構築へ



新生サニーサイドアップ 変革の進捗

- ・ クライアントリレーションを強化、大手企業のマーケティング責任者との交流イベントも開催
- ・ 統合した3社の強みを融合した共同提案を加速、クロスセルの好事例を創出

クライアント 開拓

- ・ 企業のマーケティング責任者との接点を強化し、ブランドコミュニケーション案件のクライアントを開拓
- ・ 2024年2月にInfluencer Marketing Summit^{※1}を開催
 - 大手企業マーケティング責任者を招待（イベント満足度調査100%^{※2}）
 - 新規大手企業からの受注にもつながる

提供 サービス

- ・ クライアント当たり売上高、利益が増加
- ・ 統合3社の強み（PR・商品企画・インフルエンサーマーケティング）を融合した共同提案を加速
 - PR支援中のクライアントへの商品企画提案など、クロスセルの好事例を創出（シェイクシャック渋谷店×開業記念ノベルティ）

体制

- ・ 組織改編を実施、統合3社横断的な提案体制を構築
- ・ 社員を対象とした高度なトレーニングも継続開催

(注) 1. AnyMind Group株式会社と株式会社サニーサイドアップの共催
2. 本イベントの総合的な満足度（大変満足：45.8%、満足：54.2%）

クライアントリレーションの強化

- 企業のマーケティング責任者との接点を強化し、ブランドコミュニケーション案件のクライアントを開拓

Influencer Marketing Summit※1を開催

- 大手企業のCMOやマーケティング担当者を招待
 - － コスメ・ファッション、食品・飲料、医薬品・ヘルスケアなど幅広い業種
- 現役インフルエンサーによるセッションや厳選事例の紹介、ワークショップなどを実施し、高いイベント満足度を達成
 - － アンケート回答者の満足度100% ※2
- 新規大手企業からの受注にもつながる



(注) 1. AnyMind Group株式会社と株式会社サニーサイドアップの共催
2. 本イベントの総合的な満足度 (大変満足: 45.8%、満足: 54.2%)

戦略的パートナーシップによる成長機会の創出

- 2024年5月13日、三菱商事系投資ファンドである株式会社丸の内キャピタルとパートナーシップ契約を締結
- 同社の投資先企業のマーケティング支援を通じ、本質的な価値を広く世に届け、投資先の企業価値向上を目指す

戦略的パートナーシップ契約の締結



本社：東京都渋谷区、代表者：代表取締役社長 次原悦子
PRコミュニケーショングループ

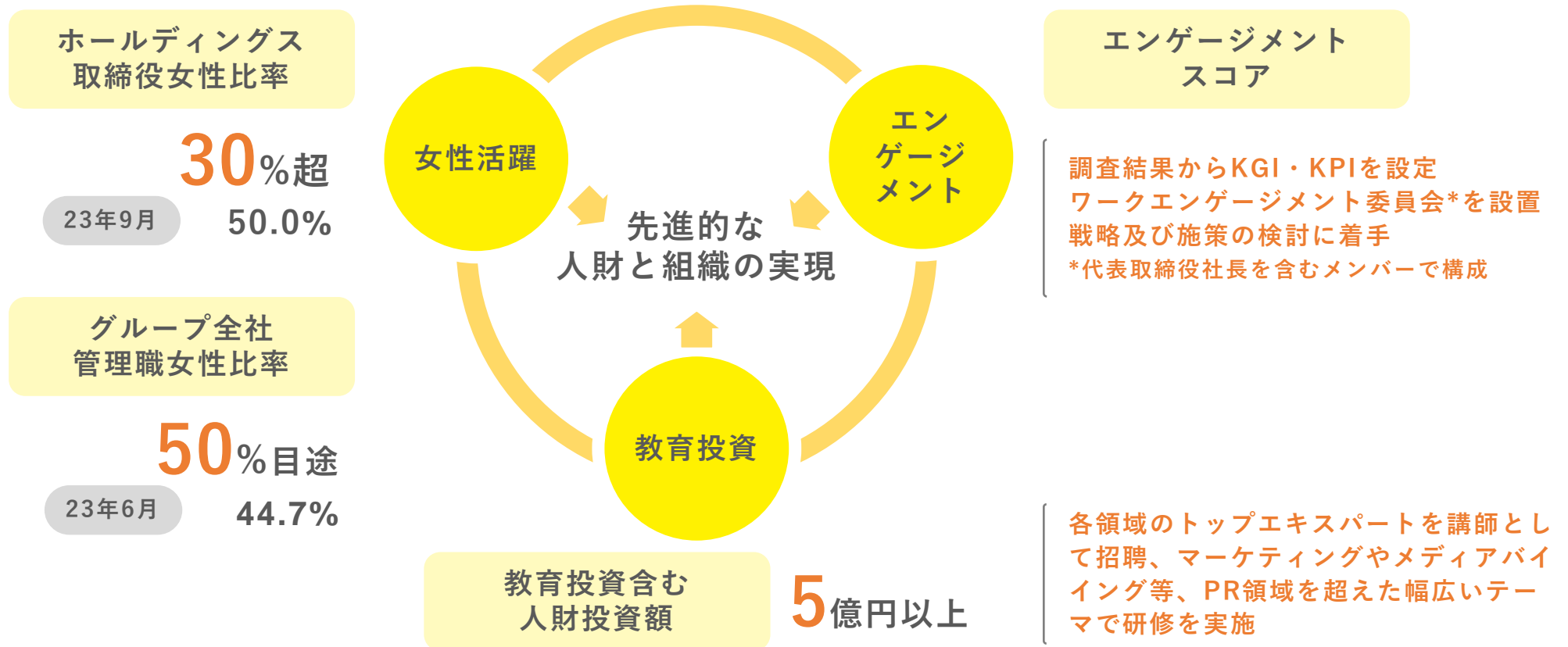


本社：東京都千代田区、代表者：代表取締役社長 藤田正敦
企業投資ファンド運用会社（三菱商事株式会社出資）

- **株式会社丸の内キャピタルの投資先企業に対するマーケティング・PR支援等で提携**
 - 当社グループが培ってきたPR・ブランドコミュニケーションの知見・ノウハウを活かし、同社の投資先企業を支援、投資先の長期的な企業価値向上を目指す
- **同社投資領域との親和性と相乗効果への期待**
 - 同社の豊富な投資実績のうち、特に流通・外食分野などのリテイル領域への投資は、当社グループにとって親和性が高く、今後の成長へ相乗効果を期待

人的資本経営ガイドライン

- 性別・国籍・宗教・LGBTQを越えて、全員が活躍する組織、まず女性活躍を更に推進
- ワークエンゲージメント委員会を設置。エンゲージメントスコアの調査結果をふまえ施策検討に着手
- クライアントへ更なる価値を創出するため、教育研修も継続的に開催



人財投資 トピックス

- 各領域のトップエキスパートを講師として招聘、先端かつ実践的なトレーニングを全社員に提供
- オフィス改装が完了し、統合3社の部門間連携強化の効果が発現

教育カリキュラムの実施

- 「SUNNY UNIVERSITY」には各領域のトップエキスパート講師を招聘
- 8回開催、述べ1,070名以上が参加

3Qの講義テーマ

講師

メディアバイイング

元 大手広告代理店
スポットCM バイイング統括

PRの本質

クリエイティブエージェンシー
ファウンダー／
クリエイティブディレクター

オフィスのリノベーション

- 2023年12月に本社オフィス2フロアのうち1フロアを全面改装
- 新オフィスが本格稼働し、グループ企業間・部門間の垣根をなくしたコミュニケーションが活発化



女性活躍推進 トピックス

- 女性活躍や女性の健康促進に向け、対外的な発信を強化
- 社内においても、女性の健康促進のための制度を積極的に導入

女性活躍に関する継続的な取り組み

- 「ダイバーシティと女性の健康促進セミナー」登壇
 - 経団連 ダイバーシティ推進委員長として代表取締役社長次原悦子が登壇、経団連所属企業の250名に対し、女性の健康課題への取り組み強化を呼びかけ
- 「知事と働く女性の意見交換会」出席
 - 女性活躍に向け小池知事との意見交換を実施
- 「ヘルスキュアDAY」として有給取得を推奨
 - 女性の健康週間(3/1~3/8)を「ヘルスキュアDAY~自身の身体をいたわる一日~」とし、有給取得を推奨



4.



Appendix

ブランドコミュニケーション事業 四半期別売上高

(単位：百万円)

	2021年6月期				2022年6月期				2023年6月期				2024年6月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高 (四半期別)	収益認識会計基準等の適用														
PR	1,281	1,936	2,416	3,485	1,485	2,211	2,052	1,994	1,562	2,198	1,884	2,562	1,707	2,249	2,360
販促施策・商品企画	823	1,767	481	572	1,227	2,285	687	1,289	2,316	3,114	405	1,341	653	2,834	1,308
計	2,105	3,703	2,897	4,058	2,713	4,496	2,740	3,283	3,878	5,313	2,290	3,904	2,360	5,083	3,669
売上高 (累計)															
PR	1,281	3,218	5,634	9,119	1,485	3,697	5,750	7,744	1,562	3,760	5,645	8,207	1,707	3,956	6,317
販促施策・商品企画	823	2,590	3,071	3,644	1,227	3,512	4,200	5,489	2,316	5,431	5,836	7,178	653	3,487	4,796
計	2,105	5,808	8,706	12,764	2,713	7,210	9,950	13,234	3,878	9,191	11,481	15,385	2,360	7,444	11,113

(注) 1. 収益認識会計基準等を2022年6月期の期首より適用しております。

2. 2023年6月期1Q~3Qの合計値は変更後のセグメントに組み替えて表示し、2024年6月期1Q~3Qの旧区分売上高は参考値として表示しております。

連結財務諸表

	2023年3月末		2023年6月末		2024年3月末		
	百万円	構成比	百万円	構成比	百万円	構成比	前期末差異
流動資産	6,275	78.0%	6,622	77.0%	6,504	79.7%	▲118
現金及び預金	2,606	32.4%	3,089	35.9%	3,398	41.6%	308
売掛金	1,901	23.6%	2,620	30.5%	2,360	28.9%	▲259
未成業務支出金	723	9.0%	551	6.4%	309	3.8%	▲242
その他の流動資産	1,043	13.0%	360	4.2%	435	5.3%	75
固定資産	1,765	22.0%	1,972	23.0%	1,660	20.3%	▲312
資産合計	8,040	100.0%	8,595	100.0%	8,164	100.0%	▲430
負債合計	4,654	57.9%	4,867	56.6%	3,866	47.4%	▲1,000
買掛金	1,428	17.8%	1,989	23.1%	1,741	21.3%	▲247
有利子負債	1,391	17.3%	1,218	14.2%	696	8.5%	▲522
その他の負債	1,834	22.8%	1,659	19.3%	1,428	17.5%	▲231
純資産合計	3,386	42.1%	3,728	43.4%	4,298	52.6%	569
資産・負債合計	8,040	100.0%	8,595	100.0%	8,164	100.0%	▲430

11年間の連結業績ハイライト

	単位	2013/6	2014/6	2015/6	2016/6	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6	2023/6
業績の状況												
売上高	百万円	13,018	12,443	11,940	13,393	13,891	13,537	14,627	14,094	15,356	16,190	18,956
営業利益	百万円	438	51	-88	447	387	355	610	420	519	767	1,296
経常利益	百万円	558	153	83	236	494	365	718	275	666	1,284	1,335
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	353	-7	-330	-216	304	380	493	-210	298	581	884
キャッシュ・フローの状況												
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	822	-377	37	24	352	757	529	549	339	1,185	846
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	-376	-85	-91	-159	-325	738	-336	-685	-311	-274	-274
フリー・キャッシュ・フロー	百万円	446	-462	-54	-135	27	1,495	193	-135	27	910	571
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	-491	551	-90	212	-92	-794	-338	705	423	-294	-744
現金及び現金同等物の期末残高	百万円	875	996	902	1,045	995	1,696	1,559	2,135	2,587	3,214	3,074
資産の状況												
総資産	百万円	4,751	5,613	5,291	5,773	5,706	5,327	5,788	5,462	7,163	7,548	8,595
純資産	百万円	1,949	1,906	1,423	1,402	1,555	1,888	2,397	2,087	2,340	2,820	3,728
有利子負債	百万円	1,228	1,676	1,684	1,833	1,716	1,020	720	1,506	1,915	1,722	1,218
設備投資・減価償却の状況												
設備投資額	百万円	351	416	105	143	291	236	256	28	164	48	141
減価償却費	百万円	105	112	170	149	127	141	161	143	106	94	85

(注) 収益認識会計基準等を2022年6月期の期首より適用しております。

11年間の連結業績ハイライト

	単位	2013/6	2014/6	2015/6	2016/6	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6	2023/6
株式の状況												
発行済株式総数	株	3,534,400	3,542,400	3,611,200	3,697,600	7,417,200	7,434,400	7,569,800	15,191,600	15,191,600	15,191,600	15,191,600
1株当たり配当金	円	20	20	10	30	10	10	10	2	6	12	15
配当性向	%	20.0%	-	-	-	24.1%	19.4%	15.2%	-	30.3%	31.1%	25.3%
1株当たりの状況												
								*	*			
1株当たりの当期純利益額	円	102.54	-2.18	-93.76	-60.43	41.57	25.85	33.42	-13.97	19.83	38.58	59.28
1株当たりの純資産額	円	515.76	501.30	371.66	343.55	198.20	120.72	153.13	135.17	151.30	178.92	238.78
経営指標												
営業利益率	%	3.4%	0.4%	-0.7%	3.3%	2.8%	2.6%	4.2%	3.0%	3.4%	4.7%	6.8%
ROE	%	20.5%	-	-	-	22.4%	23.5%	24.2%	-	13.8%	23.4%	28.3%
ROA	%	11.6%	3.0%	1.5%	4.3%	8.6%	6.6%	12.9%	4.9%	10.6%	17.5%	16.5%
自己資本比率	%	38.4%	31.6%	25.1%	21.8%	25.5%	33.4%	39.7%	37.3%	31.8%	35.7%	41.4%
D/Eレシオ	倍	0.7	0.9	1.3	1.5	1.2	0.6	0.3	0.7	0.8	0.6	0.3
従業員の状況												
従業員数	人	197	186	196	260	273	358	382	354	334	376	347

- (注) 1. 収益認識会計基準等を2022年6月期の期首より適用しております。
2. 2017年5月30日付で普通株式1株につき2株の割当てで株式分割を行っております。
3. 2019年7月11日付で普通株式1株につき2株の割当てで株式分割を行い、1株当たりの状況(*)は有価証券報告書に基づきます。

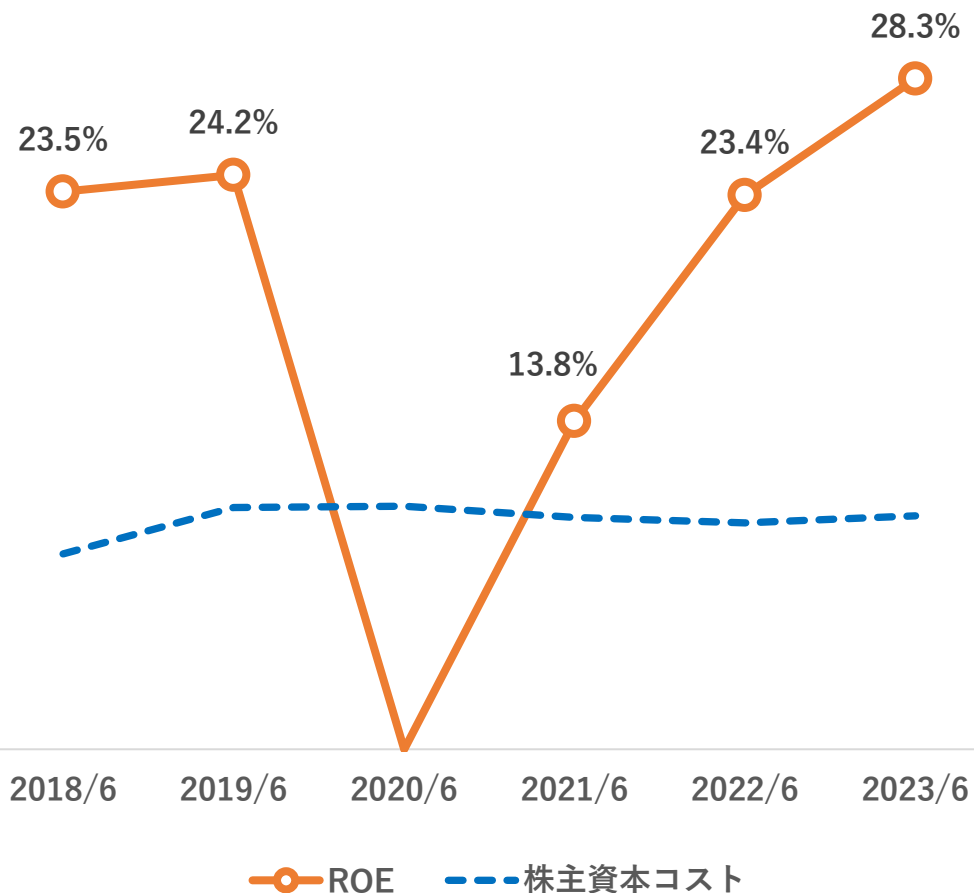
11年間のセグメント別業績

	単位	2013/6	2014/6	2015/6	2016/6	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6	2023/6		
売上高		2020/6までの報告セグメント								過年度遡及	2023/6までの報告セグメント			
コミュニケーション事業①	百万円	3,019	5,081	5,789	5,429	5,715	6,194	7,434	8,158	5,818	9,119	7,744	8,207	マーケティング& コミュニケーション事業①
スポーツ事業②	百万円	960	923	804	1,068	1,302	1,278	1,366	1,080					
SP・MD事業③	百万円	5,960	3,930	2,313	3,531	2,588	1,451	1,234	1,389	4,984	3,644	5,489	7,178	セールス アクティベーション事業②
bills事業	百万円	2,252	2,385	2,930	3,120	4,100	4,421	4,241	3,259	3,259	2,355	2,359	2,901	フードブランディング事業
開発事業	百万円	826	121	102	244	184	191	351	205	31	236	596	669	ビジネス ディベロップメント事業
計	百万円	13,018	12,443	11,940	13,393	13,891	13,537	14,627	14,094	14,094	15,356	16,190	18,956	計
【合計】①+②+③	百万円	9,940	9,935	8,907	10,029	9,606	8,924	10,035	10,629	10,803	12,764	13,234	15,385	【合計】①+②
セグメント利益		2020/6までの報告セグメント								過年度遡及	2023/6までの報告セグメント			
コミュニケーション事業①	百万円	529	550	694	666	595	715	996	1,162				1,917	マーケティング& コミュニケーション事業①
スポーツ事業②	百万円	99	76	73	140	172	178	237	288	968	1,284	1,954		
SP・MD事業③	百万円	63	-111	-110	294	34	-150	2	2	514	310	344	380	セールス アクティベーション事業②
bills事業	百万円	161	-102	-155	28	126	166	66	-210	-210	-293	-366	76	フードブランディング事業
開発事業	百万円	23	136	-72	-71	-25	40	59	-4	-40	110	-82	88	ビジネス ディベロップメント事業
調整額	百万円	-439	-499	-516	-611	-515	-594	-753	-817	-810	-892	-1,082	-1,166	調整額
計	百万円	438	51	-88	447	387	355	610	420	420	519	767	1,296	計
【合計】①+②+③	百万円	692	516	656	1,101	802	743	1,237	1,452	1,482	1,595	2,299	2,297	【合計】①+②

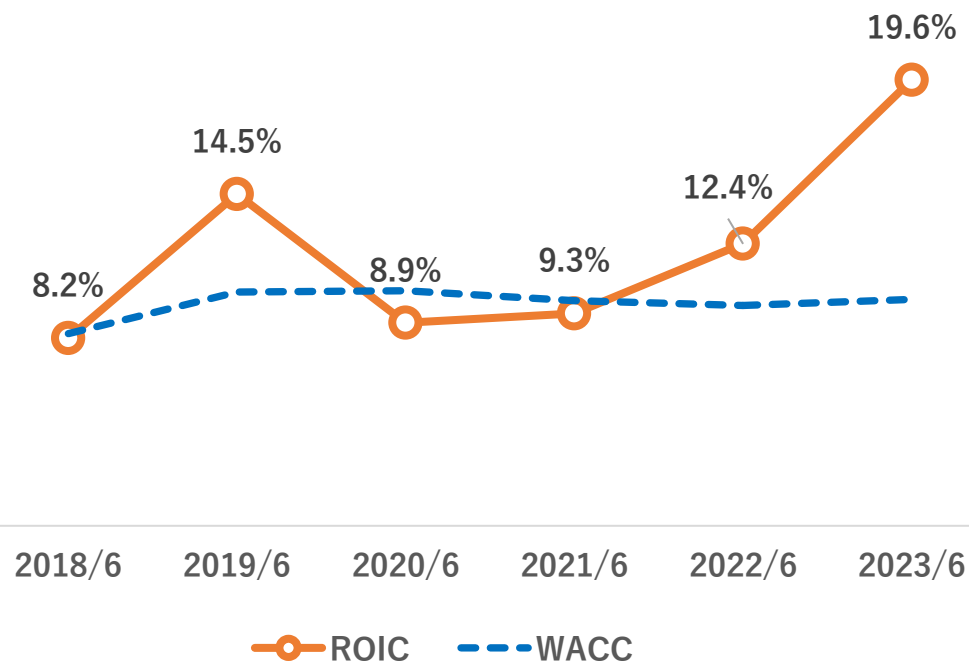
(注) 収益認識会計基準等を2022年6月期の期首より適用しております。

資本収益性と資本コストの比較

ROEと株主資本コストの推移



ROICとWACCの推移



(注) ROICはNOPAT (営業利益 × (1 - 法定実効税率)) ÷ (有利子負債 + 株主資本、期中平均) で算出しております。

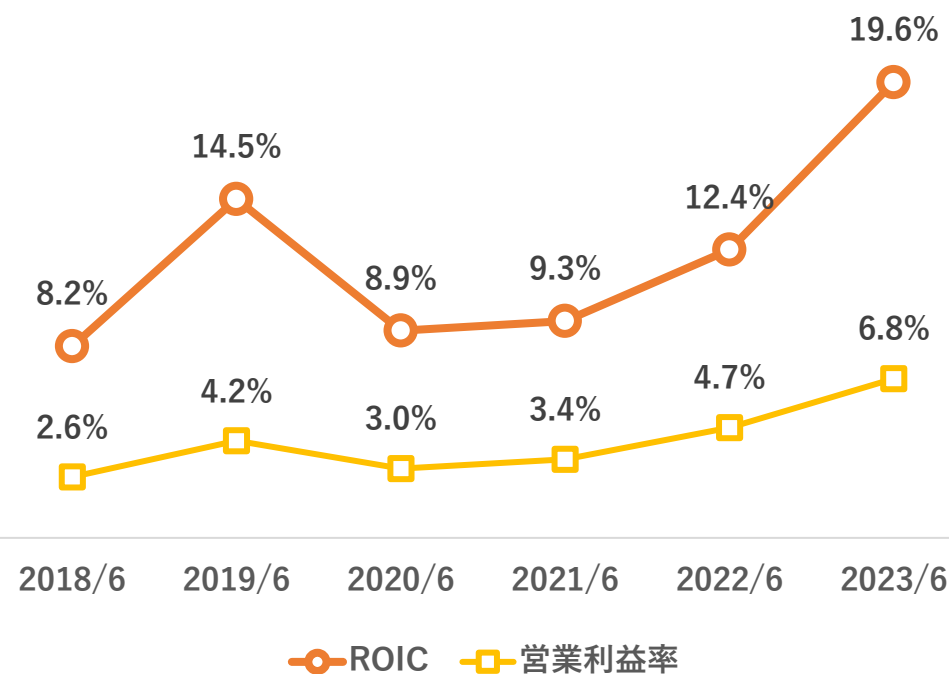
資本収益性の改善推移

資本コストと株価を意識した経営の実現に向けて

事業ポートフォリオの改善施策

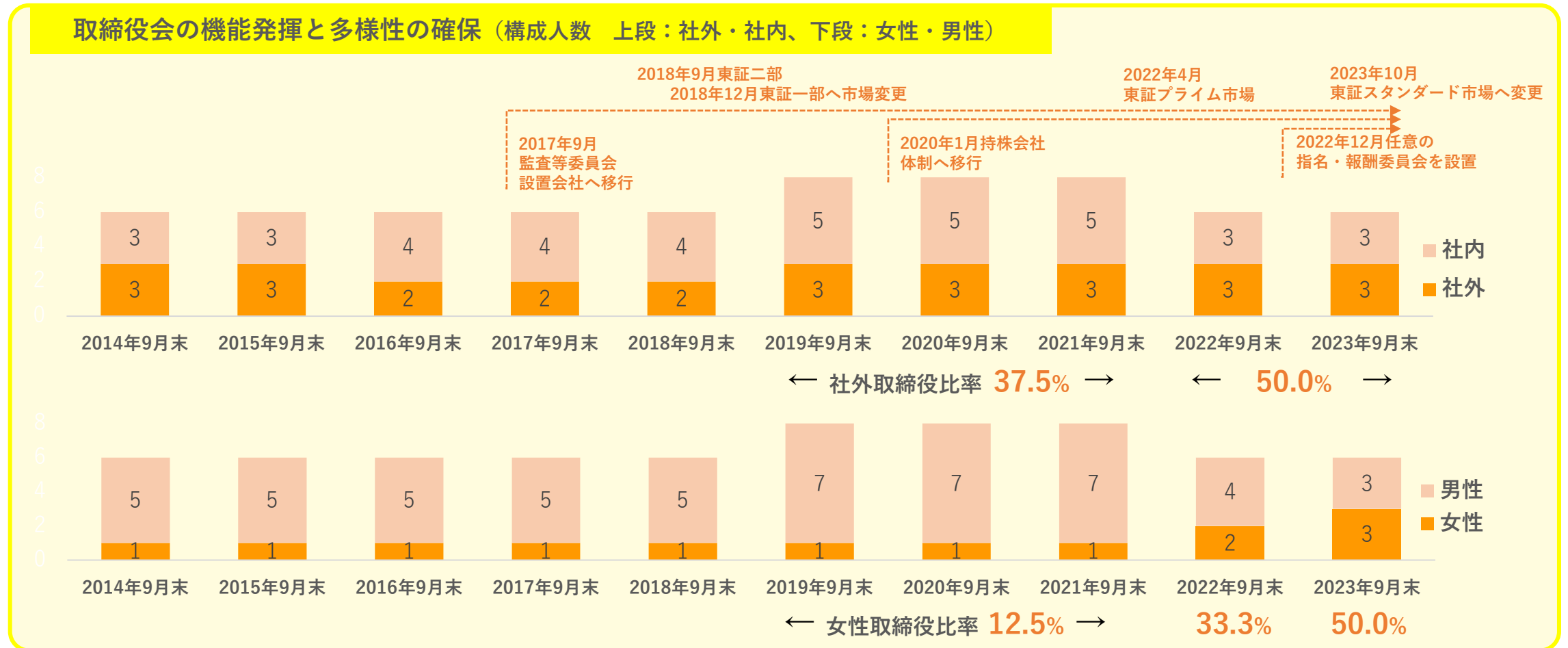
2020年1月	持株会社体制へ移行	
2022年6月	SUNNY SIDE UP INTERNATIONAL, INCを清算	} フード ブランディング事業
2022年7月	bills waikiki LLCの全出資持分を譲渡	
2023年5月	中長期経営方針「成長に向けた戦略方針」策定	
2023年7月	(株)アジャイルの全株式を譲渡	} ビジネス ディベロップメント事業
	(株)スクランブルを (株)サニーサイドアップに吸収合併	} ブランド コミュニケーション事業 (旧マーケティング&コミュニケーション事業と旧セールスアクティベーション事業を統合)
2023年9月	(株)ワイズインテグレーションを (株)サニーサイドアップに吸収合併	

営業利益率とROICの推移



コーポレート・ガバナンス

- ガバナンス強化に向けて、独立社外取締役の比率を高めるとともに、任意の指名・報酬委員会を設置
- 多様性の確保にも取り組み、女性取締役比率は50%に上昇



CHANGE THE WORLD.

たのしいさわぎで、世界を変える。

- ・本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- ・本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- ・本資料中の予想・予測などは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の業績は、事業環境の変化等の様々な要因により、記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあります。

< 本件に関するお問い合わせ >

株式会社サニーサイドアップグループ 経営管理部経営管理グループ

TEL : 03-6894-2241 mail : keiki@ssu.co.jp